

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	李 冬陽 【理学専攻 2016年度生】	<p>提出論文は、脂肪・ショ糖の過剰摂取により、動物体内の概日リズムがどのように変化し、肥満や脂肪肝の発症に至るかの分子機序の解明、ならびに高脂肪食（HFD）摂取により肥満発症したマウスに対する β-コングリシニンの改善効果、及び肝臓と白色脂肪組織（WAT）におけるその分子機序の解明を目的とした内容である。</p> <p>審査の過程では、研究背景、測定方法や実験条件の他、動物実験が多く含まれることから、実験結果の解釈や作用メカニズムについての理解の状況、申請者が得た結果の生物学的・医学的重要性等について質問され、申請者はこれらの質問にほぼ的確に答え、実験結果と関連文献の調査に基づいた自己の見解を示した。また、審査員から、論文中の記述の一部に関する順序や構成の変更、誤記の改訂、図の一部の改訂や説明の追加などに関する指摘を受け、さらにプレゼン発表に関しては、研究の最終目的を冒頭に示すなどの示唆を受けた。申請者はこれらの全てに対して、十分な修正や追加を行い対応した。</p> <p>以上の経緯を踏まえ、本学位論文は、動物の概日リズムと脂肪・ショ糖の過剰摂取、ならびに肥満と脂肪肝発症との関係を示した点で、学術的意義ならびに医療応用に資する意義も含むことを、審査委員会で確認した。</p> <p>なお、本論文の内容の一部に関しては、既に申請者を第一著者として、審査付欧文国際誌 (<i>Br. J. Nut.</i>, <u>119</u>, 1220, 2018) に掲載されている。本論文の内容の一部に関しては、既に複数の海外および国内で開催された学会において、本人が口演とポスターにより発表している。以上のような実績からも明らかなように、本人はこの分野における十分な研究能力、英語論文作成を行う語学力と討論能力を持つ点も評価できる。本審査委員会は、8月26日(月)15時から、お茶の水女子大学理学部、化学第一講義室にて行われた最終試験における本人の発表内容と質疑応答の結果も考慮して、本論文が本学大学院人間文化創成科学研究科における博士(理学)の学位を受けるに相応するものと判断し合格とした。</p>
論文題目	肥満と脂肪肝発症における概日リズムの変化及び食品成分大豆たんぱく質 β -コングリシニンの改善効果	
審査委員	(主 査) 教授 小川 温子	
	(副 査) 教授 相川 京子	
	(副 査) 准教授 宮本 泰則	
	(審査委員) 講師 市 育代	
	(審査委員) 室 長 山崎 聖美 (国立健康・栄養研究所)	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p><input checked="" type="radio"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	